

|        |           |  |
|--------|-----------|--|
| 大原中だより | 第11号      |  |
|        | H28. 3. 1 |  |

## 生徒会誌『あゆみ』の存続はいかに？

校長 安藤 盛光

サブグラウンドの紅梅、白梅がきれいに咲き誇っています。春の息吹をここかしこに感じる今日この頃です。心配されたインフルエンザも今のところ大きな流行は見られず、2年生の館岩自然の教室（スキー教室）も予定通り実施することができました。3月15日には、第62回卒業証書授与式を迎えます。

本校の生徒会では、生徒会誌『あゆみ』を昭和31年以来毎年発行しています。昨年度発行の63号の内容は、生徒会長の言葉、各生徒委員会の活動、各クラスのあゆみ、部活動紹介、先生のエッセイ等記録的なものが中心です。創刊当初は、詩や俳句といった文芸作品、生徒の意見文や作文、文化部の研究発表、運動部の活動状況等が主な内容でした。その時々で、内容は変遷をとげ、今日に至っています。この「あゆみ」をこれからも発行を続けるべきかという論議が校内で起こっています。生徒会では、生徒全員に存続についてのアンケート調査をするそうです。

『あゆみ』を創刊号（昭和31年3月）から63号までざっと目を通してみました。生徒会創設と生徒会会則制定の経緯について、当時の生徒会顧問であった岩上 進先生が何号かに渡って連載しています。生徒会結成準備委員会では、会則について白熱した議論が生徒間で行われています。起草案が修正の赤字で真っ赤になったそうです。現生徒会会則7条「総会で定められたことは最高の権威をもつ」について当時の校長から異論が出て、13条に「生徒会の活動はすべて学校長の承認を必要とする」を入れてバランスをとったようです。3条2項(2)「会員の権利はすべて平等である」については、一部の生徒から「当然のことだから明記する必要はない」との主張があり、議論の末、最後は僅差でその文言を残したと記録にあります。「風紀委員会」は『あゆみ18号』の生徒会組織図に初めて出てきます。昭和43年度の生徒会役員会から、それまであった「週番制」を廃止し、新たに「風紀委員会」を設けるとの発議がなされ、認められました。数年間に渡って話し合われたようですが、『あゆみ46号（H10年3月）』からは組織図から削除され、現在に至っています。この経緯は明らかではありません。また、『あゆみ48号』までは、生徒会本部役員は会長、副会長2名、書記2名、会計1名で構成されてきましたが、49号からは会長1名、副会長5名となっています。理由は書かれていません。他校の学級委員にあたる「自治委員」は生徒会創設当初から生徒委員会の中核として位置づけられていました。『あゆみ』の存続論議を機に、様々な角度から意見を戦わして、生徒会活動の活性化を図ってほしいと願っています。

さて、話を戻しますが、3年生は間もなく『旅立ちの日』を迎えます。私事になりますが、2月に中学校、高校の同期会がありました。卒業してから、45年ぶり、42年ぶりで会う友人もたくさんいました。何を話したらいいのかなと少し不安でしたが、そんな心配は全く必要ありませんでした。どのテーブルでも昔話で盛り上がっていました。いっしょに過ごした3年間のすべての事が共通の思い出だったのです。3年生の皆さん、楽しかったことも辛かったこともあったでしょう。しかし、それらすべてが中学校での思い出です。もし、45年後に同じ仲間と出会ったらどんな事を話すのでしょうか？

大原中学校10期生（昭和39年3月卒業）の皆さんは、現在も同期会を開いているそうです。人生の中では短い期間ですが、ずっとずっと記憶に残る3年間です。

高倉 健主演の映画に、『鉄道員（ぽっぽや）』があります。その中で、駅員が発車した列車を見えなくなるまで見送るシーンがあります。卒業していく3年生を、教職員全員で見送りたいと思います。